

鹿沼市は、女性にとっても男性にとっても生きやすい社会をつくるために
男女共同参画の視点をもって各種施策に取り組みます。

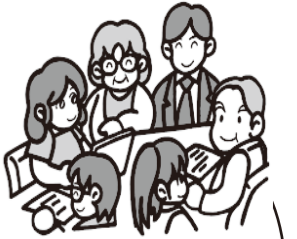
一人ひとりが輝き活力ある男女共同参画社会の実現をめざして
かぬま男女共同参画プラン2012 基本目標

I 互いを尊重した男女共同参画社会の実現のための意識づくり

1. 人権を尊重した男女共同参画意識の啓発
2. 女性に対するあらゆる暴力の根絶
3. 男女共同参画を推進する教育・学習機会の充実
4. 国際化に対応した男女共同参画の促進

II あらゆる分野への男女共同参画の促進

1. 政策・方針決定過程への女性の参画促進
2. 男女共同参画を支える市民活動の促進



III 男女が共に働きやすい環境の整備

1. 労働の分野における男女共同参画の促進
2. 男女が働きやすい環境づくり支援



IV 男女が共に輝き心豊かに過ごせる社会づくり

1. 生涯を通じた男女の健康づくり支援
2. 子育てへの社会的支援
3. 安心して暮らせる環境の整備



かれんと

No. 41
2012. 9. 25

Current:カレント
時代の流れあるいは
新しい潮流

主な内容

- ・国際結婚夫婦からみる男女共同参画・・・P1
- ・国際結婚の夫婦に聞きました・・・P1~P3
- ・鹿沼市より・・・P4
- ・お気に入りBook・・・P4
- ・ひとくちメモ・・・P4

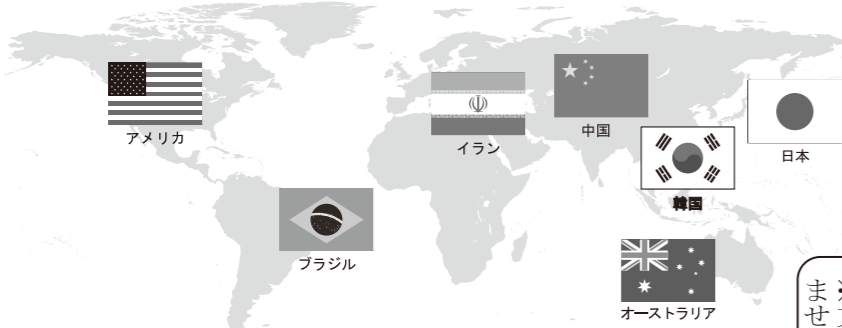
※★印はかれんと編集員のコメントです。
※文中の国名は、その国を代表する意見ではありません。



あなたの出身国ではどうですか？

① 家事の分担について

- ◆韓国では家事は全て女性の仕事でした。現在夫は、率先してよくやってくれます。
- ◆ブラジルでは家族みんなで家事をするようにしています。
- ◆オーストラリアでは今でも分担している方が多いです。
- ◆中国では夫婦で協力してやりますが、現在は妻の私がほとんどやっています。
- ◆財布を握るのも、買い物をするのもイランでは男性の仕事です。現在は妻の私が全てやっています。
- ◆私は日本人ですが、家事は全て分担しています。ただ力仕事などは男性の私が率先して行ないます。



今年3月に、鹿沼市は男女共同参画都市宣言を行いました。宣言にあるとおり、誰もが幸せに暮らせる社会を築くためには、具体的にどのようなようにすれば良いのでしょうか。

女性、男性、多様な性、乳幼児から高齢者、病気をしている人、障がいのある人、外国人、一人暮らし、ひとり親家庭など、鹿沼市にも、様々な立場の人が暮らしています。市民一人ひとりが、お互いの意見に耳を傾けることから、多様性の尊重は始まります。

今号では、市内及び近隣に住む、国際結婚をしている夫婦を対象にリサーチを行い、そこから見えてきた男女共同参画社会について考えてみました。

編集後記



かれんと第41号を発行するにあたり、ご協力をいただきました皆様に、編集員一同、御礼申し上げます。

今号から、新たなメンバーと共に編集作業を出発させた「かれんと」ですが、これからも市民の皆様に興味を持って読んでいただける内容を目指して頑張りたいと思います。

石川・高橋・福田・山本

ひとくちメモ

多様性の尊重とは
社会学上で多様性は、社会の変化と発展に、欠く事のできない要素だといえる。様々な思想、宗教、哲学、民族、人種が入り交ざった地域では、各々がそれぞれに必要とされることにより、個人としての多様性が集団の経験値を高め、個人が個人として尊重され、同時に他を尊重する。これを「多様性の尊重」という。

ウィキペディアより

お気に入りBOOK

いいことがいっぱい起きる！



「ほめ言葉」ブック
著者 平木典子+アサーション研究グループ
出版 (株)大和出版

人との絆を深める言葉ブック
ちょっと言い方を変えるだけで…
ちょっと思い込みを捨てるだけで
あなたと、相手の関係が疲れない
関係になる本です。

★多くの家庭で分担をしているとの回答がありました。力仕事、庭仕事は男性が担当、また家の中の仕事は、家にいる時間の長い方が担当することが多くなるようです。

2 育児の分担について

◆母乳育児だったので夫（ブラジル）の協力は少なかったが、子供の成長とともに関わってくれるようになりしました。学校関係は、夫は日本語の読み書きが不自由なため、私がしています。

◆日本では、育児を女性に任せきりが多いですが、私たちは今後とも、分担して協力してやります。

◆アメリカでは、大半がミルクなので、夜の育児も分担します。学校行事は休める方が行きます。

★母親が中心に、育児をしている印象が強いですが、父親が分担する割合も高まっています。日本の男性は、職場で費やす時間が長く、育児や学校行事への参加がしづらようです。

3 介護に対する考えについて

◆ブラジルでは、家族全員で看ることが多いです。親に対しての思いは現在の日本より強いように思います。

◆中国では施設に入れると親不孝と言われるので、男女共に家で看ます。預ける意識はありません。

★2010年の市民対象の意識



調査では、介護の分担は「夫婦同じくらい」が32%、「どちらかといえば夫」が1.1%、「主に妻、どちらかといえば妻」が42%でした。

4 家計の分担について

◆韓国では夫婦間で全てを共有し、出費は夫婦で話し合っています。

◆ブラジルが、経済的に余裕が出てきたのは近年のことで、家族が互いに助け合ってきたと思います。

◆日本では、かつて夫が財布を握っていました。最近では妻が握っている家庭が多いです。

◆イランでは夫の稼ぎで暮らして、財布は夫が握っていますが、妻が使えないことには不満です。

★女性の自立には、経済的背景が欠かせません。夫婦間の十分な話し合いと理解の中で成される家計の分担は、男女共同参画社会への第一歩ではないでしょうか。



5 子どもの頃からの家事分担について

◆イランでは自分から手伝いをするのは当たり前、男の子も家のことをやります。母親への尊敬があるので、自然と母親を手伝います。

◆勉強が第一なので、中国では、ほぼ分担はしていません。でも現在、子どもには家事を手伝わせています。

★男は仕事、女は家庭という意識はないとの回答が多数でしたが、日本では諸外国と比べまだその意識が強いことが、回答からも、右ページのグラフからも読み取れます。女性の自立と日本の経済のためにも、意識を変える努力が必要ではないでしょうか。

7 日本人の夫婦を見て違和感を覚える事がありますか

◆謙遜もあると思いますが、夫婦間にはいたりや尊敬の気持ちが必要なのに、配偶者を悪く言う人が多いです。（韓国）

◆ブラジルではどんな集まりも夫婦同伴が当たり前ですが、日本では夫婦が互いの交友関係に無関心なことが不自然だと思います。

◆日本の男性は女性を粗末に扱うと思います。（ブラジル）

◆自分たちの生活のみ大切にしている互いの親の面倒を嫌がっているように見える。（イラン）

◆アメリカでは惹かれあうから一緒にになるので、男同士、女同士の結婚もあるし、結婚に対する見返りは求めません。日本では、既婚者に社会的メリットがあるから、結婚しているように見えます。（アメリカ）

◆多くの男性が家事を全くしないどころか、家に帰ってからテレビ



やゲームばかりしているのはおかしい。（日本）

★日本人の夫婦を見て、違和感を覚えている方が多いようです。日本人も、もっとお互いの存在を大切にできる夫婦関係を築いてほしいです。

8 男女共同参画意識の違いが原因で離婚しようと思つたことがありますか

◆私はありません。（中国）

◆特にありませんが、男女共同参画をしていない家庭は、男性の自立心を弱まらせ、魅力のない男性を生み出していると感じます。日本では世間体のため離婚せず、家族ごっこをしている、幼稚な家庭が多いと思います。（日本）

◆離婚は考えませんが、男性と同じように働くには、女性は育児や家事に多くの時間を使わなければならないのに、男性からのサポートが少ないので、我慢や妥協をしています。（イラン）

◆違いがあっても、少しは我慢や喧嘩をしても、一緒に生きて行くのがいいと思います。（イラン）

◆結婚生活を継続させるには、お互いの思いやりが必要。（アメリカ）



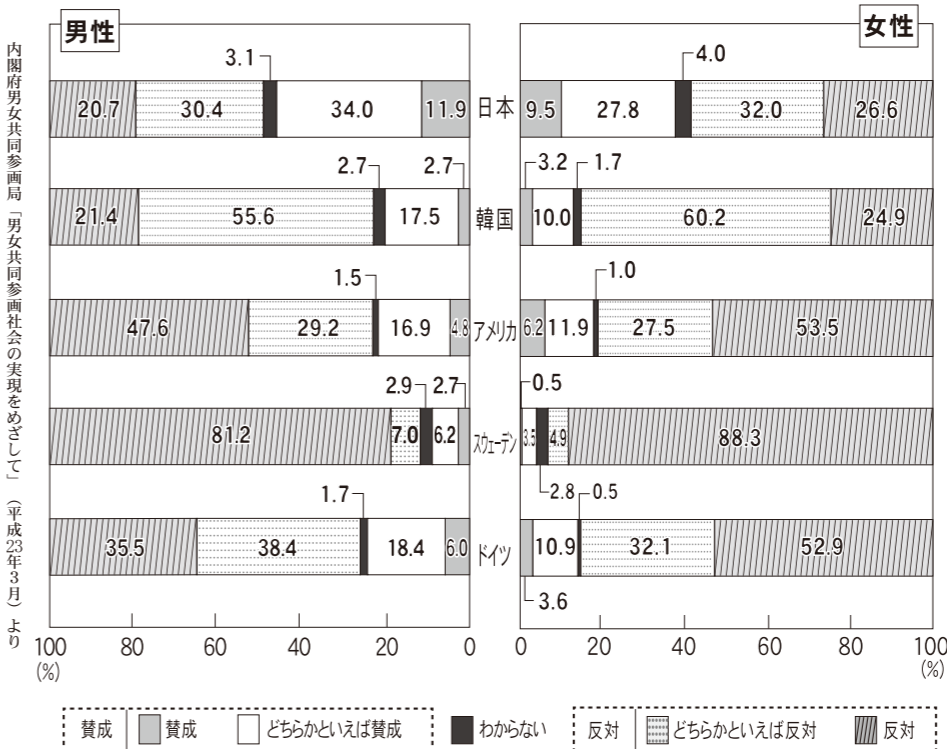
◆韓国は子どもの教育に熱心で、むしろ、親が子どもの教育をサポートすることに重点を置いています。

★男女共同参画意識を家庭の中に浸透させるには、男女共に幼い頃から両親の躾が重要です。家庭は、他者を助け、認め合う人格を形成する学びの場であって欲しいと思います。



固定的性別役割分担意識〈国際比較〉

固定的性別役割分担意識(夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという意識)について、諸外国では、「反対」、「どちらかといえば反対」とする割合が高く、特にスウェーデンで顕著です。これに比べ、日本では賛成する割合が高くなっています。



内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会の実現をめざして」(平成23年3月より)

必要で、互いに思いやり、サポートをしながら生活していくことの大切さを実感しているようです。

9 日本の少子化の原因について

◆子育てしやすい社会ではないので。（日本）

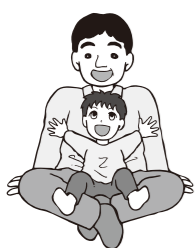
◆育児にお金がかかりすぎる。優しさの欠如。（イラン）

◆「自分さえよければ」という自己中心的な人間の増加。（ブラジル）

◆取組が良いが形だけに終わらないのが大切だと思う。（韓国）

◆性差だけでなく、違う立場の人たちが共存できるような取組を期待したい。（ブラジル）

★市民の皆さんの意見を尊重し反映される紙面づくりをしていきたいです。



6 「男は仕事、女は家庭」という考えについて

◆昔はそうでしたが、現在中国では多くの女性が職場で活躍しています。

◆感じたことはない。（回答多数）

◆日本はまだその考えがあります。

まとめ



全体的に、男性、女性といった概念に捉われないことなく、「自分らしさ」「その人らしさ」といった、個人を尊重する意見が多かったのが印象的でした。それと同時に、「家族を大事にする心」や「親を尊敬する心」を大切に、それを自然に表現している方が多くなったことに感銘を受けました。

日本は近年、欧米に追いつけ追いつけと、著しい経済発展を遂げて来ました。その根底にある「個人主義」を模倣した結果、自分勝手な「利己主義」を身に付けてしまったのかもしれないかもしれません。「優しさの欠如」「自己中心的な人間の増加」という意見を真摯に受け止めなければいけないと思います。

「かぬま男女共同参画プラン」が改定され、「一人ひとりが輝き活力ある男女共同参画社会」を実現していくには、私たち市民が積極的に取組、参画していくことが必要かと思われまます。